

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番 76	福山市立御野小学校
最終更新日	2022年(令和4年)10月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	問題解決能力・コミュニケーション力・意思決定力
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、各校の重点目標への取組が着実に進められ、子どもたちの主体的な学びの成果が現れている。 教職員のやりがいや充実感の高さは、教育の基盤となる。 小中間で学力の伸び調査などにみられる課題を共有し、ICTを活用した授業改善等により基礎学力の定着を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を持ち、学校生活全般に渡り、主体的にがんばることができ、全体的な規範意識は高い。 授業では協働的な学習に積極的に取り組んでいるが、意見の練り合いや合意形成、表現のスキル等が十分でない。また、基礎学力の定着にも課題がある。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	自己を認識し、「なりたい自分」を目指し、自分の人生を選択し、自分らしく表現することができる。 ・子どもがワクワク感をもって課題を探究し、自分らしく表現する子どもの学びの創造 ・「あいさつ」の大切さを実感し、家族や友達、教師や地域に向けて実践する力の育成 ・主体的な学びに係る「ふるさと学習」・SDGS・ICT活用による改善 ・「家庭学習」における子ども主体の学びの推進のための発達段階に応じた取組の明確化と実践 ・「体力向上」に向けた子ども主体の取組の推進

III 自校

ミッション 「地域の宝」となる子どもを育成する。 ○児童の学びの場を充実させ、児童に学力をつける。 ○児童に当たり前のことが当たり前でできる自立の力をつける。 ○地域と進んで関わり、地域から学び、地域のために役立ちたいと思う気持ちを育てる。
学校教育目標 自ら学び、人間性豊かで、たくましく生きる子どもの育成
現状 <児童生徒> ○素直でまじめな生活態度で、決められたことは守ろうとする児童が多い。「御野しぐさ」として全校でよい行いをしようとする意欲がある。あいさつや掃除がコロナ禍の中で不十分になっている。自分の考えを持つことはできるが、全体へ向けて説明したり表現したりする力には課題がある。 ○全国学力・学習状況調査等から基礎学力にも活用力にも課題が見える。既習の知識や技能を活用したり、自分の考えを友達の考えと関連付けたり比較したりして深めていく児童が固定化している。 <授業> ○子ども主体の学びづくりについて、社会科・図画工作科を中心に授業づくりを研究してきた。児童自らが主体となって、友達の意見を聞き、深め合うことが全教室で展開されるよう、付けたい力やその指導内容、展開等子ども主体になる授業づくりを進めていく必要がある。 ○ICT 機器を活用した授業に積極的に取り組んだ結果、児童のスキルは向上した。情報モラルの学習を継続していくとともに、活用場面を適切に位置付けてすべての子どもが「もっとわかりたい」という授業改善を進める必要がある。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	<input checked="" type="checkbox"/> 問題解決力 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 <input checked="" type="checkbox"/> 意思決定力
めざす子ども像	<input checked="" type="checkbox"/> 自分で、みんなで、取り組む中で、課題に向けて調べたり、他教科と関連付けたり解決方法を考えたりと、主体的に解決の形を考えることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 自分の夢や目標を語り、他者と進んで関わり、互いのよさを認め合うことができる。 ・様々な表現方法で、自分のことや考えを伝えることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 「やってみよう」とする意欲をもち、自分の行動を自分で決定することができる。
研究	テーマ 「ワクワク感をもって、課題を探究し、自分らしく表現する児童の学びの創造」～児童が進んで考え、表現する主体的な学びづくり～ 内容等 児童が考えたい、できるようになりたい、わかりたいとチャレンジしたくなる授業展開・単元構成の工夫 多様な方法で学習する学習環境の整備と情報活用能力の育成 児童の学びを支える教職員の役割
めざす授業の姿	児童がもっとやってみたい、できるようになりたい、分かりたいと思う授業 ○児童全員が授業に進んで参加し、自分で考え、判断する授業(主体的) ○自己・他者・教材内容と対話し、既習や経験をつないで解決する授業(対話的) ○教科の「見方・考え方」を働かせて理解を深める授業(深い学び)

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	□達成 評価	□改善 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	□達成 評価	□総合 評価	□改善 評価
1 1	知 児童自ら課題 を見つけ解決 する楽しさを 味わう、子ど も主体の学び づくりを進め る。	★	新規	子どもがチャ レンジできる 場、主体的に探 究する授業を つくる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童が考えたい できるようにな りたい、わかり たいとチャレン ジしたくなる授 業展開・単元構 成を工夫し、授 業構造の転換を 図る。 基礎学力の実態 を把握し、個に 応じた多様な方 法（ICT活用等） で学習する環境 の整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の 時間、生活科が楽 しい」「授業で考 えることが楽し い」児童80%以上 国語科算数科の学 期末テスト40点 未満の児童2% 	<p>「総合的な学習の時 間、生活科が楽し い」「授業で考 えることが楽し い」児童 91%</p> <p>国語科算数科の学期 末テスト40点未 満の児童2%</p> <p>学習課題や自分の 取組テーマを児童 が設定する授業展 開を行った。 学習方法や学習内 容を児童に選ばせ 自由進度学習を取 り入れた。</p> <p>ICT を活用して視 覚的に理解できる 環境整備を行っ た。</p>	3	3	資料や問題の 出あわせ方を 工夫し、児童が 考えたいと思 える必然的な 課題を設定す る。 児童の「考え たい。」「チャ レンジしたい。」 思いを取り上 げ、児童と共に 単元構成をす る。 学力の伸びを 把握する調査 や CRT の結 果分析を行う ことで個の実 態を把握し、 個に応じた手 立てと支援を 行う。				
				自己表現力を 向上する。	<ul style="list-style-type: none"> 様々な方法で自 分の考えや思い を表現する活動 や場を設定す る。(PBL学習等) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育活動の あらゆる場面で 書く・話す活動 を位置づけ、学 期に1回以上他 学年や地域へ表 現活動を発信 	<p>コロナ禍で交流 する場面が少 なく、書く話 す活動は位置 づけたが、他 学年や地域に 発信することに 至らない学年 が多かった。</p>	3	3	総合的な学習 の時間や国語 科等で、児童 が自ら「書か い。」「伝え たい。」と思 える表現の場 を設定する。				
	徳 自分も他人も 大切にす る心 を育てる。	★	新規	一人ひとりを 大切にした学 級経営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 個の実態や状況 に応じた登校方 法や学習活動を 実践し、保護者 連携を丁寧に行 う。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童の減 少と出席数の増 加 	<p>1学期の欠席状 況は、全学級平 均は2.9%だ った。</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 新規不登校児 童はいないが、 欠席日数が増 えている児童 もみられる。 休日明け等に 休みがちな児 童に、丁寧な 対応と保 				

				<ul style="list-style-type: none"> 各分掌の仕事内容を精選するとともに、見通しを持って仕事ができる仕組みを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会の時間と内容を主任主事が精選し、各部署員が見通しを持って運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「職員同士連携をとって仕事を進めている。」肯定的評価90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「教職員同士連携をとって仕事を進めている」と肯定的評価をした職員は100%であった。各部の主任・主事が見通しを持った計画を立てたことで、各部署員が主体的に働くことができた。 	3	<u>3</u>	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌の仕事内容の精選が必要である。また、学年会の時間確保のため、毎週火曜日に学年会を固定する。 					
1	教職員が生き生きと働ける職場をつくる。	★	新規	<ul style="list-style-type: none"> 仕事に対する満足感や充実感を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の意欲を重視した取組や研修を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「仕事にやりがいを感じている教職員」を90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 職員アンケート「仕事にやりがいがある」において肯定的評価は81%だった。 	2	<u>2</u>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き業務改善を進め、企画書の交流等により、教職員の主体的な研修を進める。 					
				<ul style="list-style-type: none"> 時間と質を意識した業務を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定時退校日を実施し、自己管理システムを作り、超過勤務の縮減を意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間外勤務、年間360時間以内 	<ul style="list-style-type: none"> 定時退校日の実施率50%、在校時間外勤務が月30時間を超えた職員は72%だった。 	2	<u>2</u>	<ul style="list-style-type: none"> 会議の内容を共有フォルダで全職員が把握できるようにすると共に、個々が自己管理できるシステムを習慣づける。 					